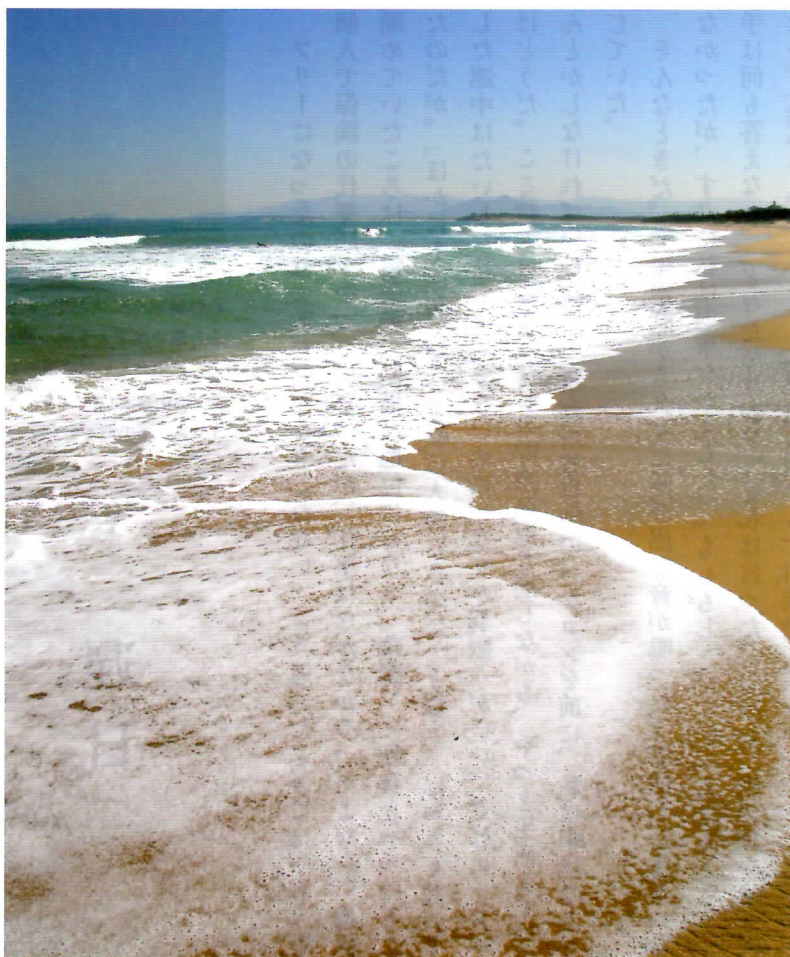


福岡市内で書店『ブックス
キューブリック』をいとなむ
大井実さんの、本のある日
常をつれづれに。
撮影／川上信也

春の海へ、素敵な写真集と 極上のBGMを聴きながらドライブ。



『博多湾、海を見にゆく』
西島善和／海鳥社／
3,000円（税別）



『BLUE'S MOODS』
ブルー・ミッチェル
※版權の都合により、今
回はアルバムジャケット
の掲載は控えています。

春になると海が見たくなります。福岡には博多湾があり、市内どこからでも手軽にアクセスできるのに、地元の人たちはあまりにも身近すぎるからか、意外とこの海を知らないようです。実は私もそうで、博多区内にある店の近くには博多湾の埠頭が広がっているにもかかわらず、なかなか接する機会がありません。そんな中、素晴らしい本を見つけました。福岡市在住のカメラマン・西島善和さんによる『博多湾、海を見にゆく』という写真集です。西島さんはもともと福岡市のご出身で、東京で活躍した後、地元に戻って9年前に独立。子どもの頃に慣れ親しんでいた博多湾と再会します。そこで目の当たりにしたのが、埋め立てがすすんだり海底の掘削が続いたりで、常に変化し続ける海の様子。西島さんは、この小さな海を見守りたい、と博多湾の撮影をはじめたそうです。

西島さんの作品が印象的なのは、実

に多彩な博多湾の表情をとっても美しくとらえていることと、インパクトのある構図。オブジェのように積み重なるテトラポット、自然が織りなす波や砂浜の模様、行き交う船や埋め立て地にそびえる工場群……。こんな博多湾があったのかと、ページをめくるたびに情感たつぷりの風景に驚かされます。1枚1枚が何かを語りかけてくるようにドラマティックで、自由でのびやかで……。車に積んでおいて、春の博多湾を見にドライブする際のガイド本として利用してもいいですね。

春の海へのドライブ、BGMはブルー・ミッチェルのゴキゲンなジャズアルバム『ブルースムーズ』で決まりです。ミッチェルののびのびとしたトランペットと、共演者であるウィントン・ケリーの転がるような極上のピアノ。軽やかな空間を感じさせるような心地よいふたつの音色は、心躍る春にぴったりです。